



森の幼稚園へようこそ 港区立白金台幼稚園



2月園だより

平成31年1月29日
園長 新井 智子

〒108-0071
港区白金台
3-7-1
(3443) 5666



<http://shirokanedai-kg.mina-to-ky.ed.jp/>

獅子舞



園庭での子どもたちの獅子舞



凧揚げ



光れ!泥だんご

園長 新井 智子

寒風に負けず、子どもたちは「森の幼稚園」を満喫するように、毎日元気いっぱい戸外で遊んでいます。白金台幼稚園は1月25日、45回目の開園記念日を迎えました。これも地域や保護者の皆様に暖かく見守られ、ご支援いただいているお蔭だと感謝しています。これからも子どもたちの笑顔が溢れる幼稚園として、教職員一同さらに努力を重ね、歴史を紡いでまいります。

さて、年長組で夏の頃から細く長く続いている遊びがあります。その遊びが最近「研究所」として子どもたちの中でブームになっています。それは、泥だんごづくりです。2000年頃から、幼稚園や保育園で話題になり、発達心理士で「泥だんご研究家」の加用文男氏の「光れ!泥ダngo」の本の出版を機に子どもたちに広がり、定着している遊びです。土をこねて丸め、磨きあげる。この単純な遊びが子どもたちは大好きです。「たかが泥だんご、されど泥だんご」。遊びは素朴でも、体験を通して多くの学びがあります。加用氏は、「育ちに役立つ理屈」や「学習効果」などをあげて推奨しているわけではありません。「子どもが泥だんごと対話しながら、自分の力で行っていく過程や自在に変えていくことに魅力や楽しさがある」と、子どもの特性と遊びの関係を伝えています。しかし、子どもたちの姿を見ていると、多くの学びや心の成長を感じます。硬くするにはどうすればいいか、どこの土がいいか、つくることの追求と、できた時の嬉しさ、壊れた時の無念さ、そして、先生や友達と知恵や技を尽くし、思いを共有する達成感などです。泥だんごは、子どもたちの遊びの最高傑作であり心の成長の証なのです。

年長児に刺激を受け、年下の子どもたちも取り組み始めました。この遊びも幼稚園で传承されていきます。光れ!泥だんご! 光れ!子どもたち! 森に子どもたちの静かな熱気が広がっているこの頃です。

<今月の指導のねらい>

3歳児

- 自分がしたい遊びを教師や友達と一緒に楽しみ、自分の思いや考えを相手に伝える。
- 劇遊びや楽器遊びをする中で、自分なりに表現する楽しさや満足感を味わう。
- うがい・手洗いや片付けなど、生活に必要なことに自分から取り組み、できた喜びを味わう。

4歳児

- 友達の気持ちを受け止めながら、一緒に遊びや活動を進めていく楽しさを味わう。
- 学級のみんなで取り組むことを楽しみ、自分なりに表現したり、力を発揮したりする。
- 冬の自然に興味をもち、遊びに取り入れたり、戸外で元気に遊んだりする。

5歳児

- 自分なりに課題をもち、繰り返し挑戦したり友達と認め合ったりしながら上達や実現の喜びを味わう。
- 一日の流れや週・月の予定などに見通しをもち、今すべきことを自分なりに判断し、状況に応じた行動をする。
- 小学校との交流やお別れ遠足、活動の引き継ぎなどを通して、自分たちの成長を感じたり、就学への期待を高めたりする。



